



# 花のしおり

石川県立金沢伏見高等学校  
図書委員会  
平成30年7月5日発行

図書だより  
122号

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

## 読書感想文 課題図書 紹介

『わたしがいどんだ戦い 1939年』

キンバリー・ブルバ イー・ブラッドリー作／大作道子訳

一九三九年。二度目の世界大戦  
さなかのロンドン。足の悪いエ  
イダは、けんめいに歩く練習を  
していた。歩けさえすれば、弟  
といっしょに疎開できる！—自  
分らしく生きるために戦う少女  
と、彼女をあたたく包む村の  
人たちをえがく。

『車いす犬ラッキー 捨てられた命と生きる』

小林 照幸 著

君はかけがえのない家族—。美  
しい自然と、人々が支えあう「ユ  
イ(結い)」の伝統が息づく島で、  
一人の男がめぐりあった“人生  
を変えた犬”。犬と人のドラマ  
を通じて、命の意味を問う、感  
動のノンフィクション。

『いのちは贈りもの ホロコーストを生きのびて』

フランシス・クリスト 著／河野万里子訳

フランスでホロコーストを生き  
延びた少女の手記。裕福な家庭  
で平和に生活していた著者が、  
ナチスによって徐々に過酷な状  
況に追い込まれていく様子が、  
当時(6歳)の子どもの目線で、断  
片的な独白の形式でつづられて  
いる。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

## 文月・葉月 (ふみづき・はづき)

梅雨が明けて夏の訪れとともに、稲穂が大きく育つ頃、夏の花火大会は悪疫退散を祈ったのが始まりとされています。

夏祭りはこの時期、毎日どこかで行われているといっ  
てよいほど、多くのお祭りがあります。それは豊作祈願だ  
たり、先祖の供養や身の穢れを祓うものであったりしま  
す。

太陽が輝き、緑が勢いを増し、真夏の暑さが続く時季で  
す。南瓜や蓮根・茄子・ゴーヤ等の夏野菜を食べて元気に  
過ごしましょう。

(『家族で楽しむ歳時記・にほんの行事』参照)



## お知らせ

生徒のみなさんは、夏季休業中に読書感想文を書  
いて、担任の先生へ提出してください。課題図書で  
も、自由に本を選んで構いません。是非図書室へ  
来て、本を選んでください。

図書室には「高校生に読んでほしい50冊」コー  
ナー、石川県出身の作家の本・新任の先生がおす  
めする本等のコーナーもあります。

要項・用紙は配付済みです。

## お願い

清流祭で図書委員会は古本市を行います。古本市  
は生徒の皆さんやご家庭で読まなくなった本やマ  
ンガを提供してもらい、それを読みたい人に格安で売ります。提供していただいた方には、古本  
市で使える割引券を進呈いたします。8月24日(金)までに各ホームの図書委員に提出してく  
ださい。ご協力をお願いします。

## 新任の先生が紹介するおすすめの本（第2回）

朝田肇教頭先生「The Sense of Wonder」（英語版）（レイチェル・カーソン）

子どもたちへの一番大切な贈りもの。美しいもの、未知なもの、神秘的なものに目を見はる感性「センス・オブ・ワンダー」を育むために、子どもと一緒に自然を探検し、発見の喜びに胸をときめかせる。日本語版もありますが英語版がおすすめです。

山内捺稀先生「置かれた場所で咲きなさい」（渡辺和子）

時間の使い方は、そのままのちの使い方。置かれたところこそが、今のあなたの居場所なのです。「こんなはずじゃなかった」と思う時にも、その状況の中で「咲く」努力をしてほしいのです。

井上小百合先生「漫画 君たちはどう生きるか」（吉野源三郎、羽賀翔一）

コペル君はある時、家によく遊びに来る母の弟である叔父さんから一冊のノートを渡される。そこには過去に、叔父さんと友人と話したり、考えたりした、さまざまな出来事が記され、それに対する叔父さんからのメッセージが綴られていた。天文学、化学、物理学、経済学、英雄譚……叔父さんとの対話を続けるうち、コペル君はものの見方や貧困、差別といった社会の構造、人間関係について学ぶ。そして、親友たちとの間に“ある事件”を起こしたコペル君は「どう生きるか」について深く問いかけられることになる。

赤丸文恵先生「夢をかなえるゾウ」（水野敬也）

ダメダメなサラリーマンの前に突然現れた関西弁を喋るゾウの姿をした神様“ガネーシャ”。成功するために教えられたことは「靴をみがく」とか「コンビニで募金する」とか地味なものばかりで…。夢をなくした“僕”と史上最悪の“師匠”が繰り返す「笑って」「泣けて」「ためになる」  
続編 2, 3 もあります。

土屋正道先生

「ドラゴン桜公式副読本

16歳の教科書」（講談社文庫）

“なぜ学び、なにを学ぶのか”を考える

「夜、眠る前に読むと心が「ほっ」と

する50の物語」（西沢泰生）

心が疲れたら読んでみては

「100円のコーラを1000円で売る方法」（永井孝尚）

続編 2, 3 もあります。

“常識を打ち破る発想”が発見できます